



令和5年10月27日(金)発行

校長 栗原 友恵

北九州市小倉北区昭和町16番1号

HP: [www.kita9.ed.jp/nakashima-e/](http://www.kita9.ed.jp/nakashima-e/)

TEL: (093) 921-1690

<学校教育目標>

体・徳・知 調和のとれた心身ともに健康な子どもの育成

<目指す子ども像>

○相手の立場に立って考える思いやりのある子ども

○すすんで学び、自ら考え、表現する子ども

○元気に学び、すすんで運動に取り組む子ども

<目指す学校像>

○安全な学校 ○温かい学校

○笑顔があふれる学校

○「中島小大好き」と言える学校

○成長(学習)し続ける学校

○保護者・地域・関係機関と連携する学校

## 5年生 大きく成長した自然教室

10月3日(火)・4日(水)の2日間、もじ少年自然の家で、5年生の「自然教室」を行いました。今年は東朽網小学校と合同でした。昨年度までは、コロナ禍で、感染防止対策を講じての自然教室でしたが、今年はほぼ例年通り。天候にも恵まれ(1日目の夜、若干雨が降りましたが)、2日間、予定通りのプログラムで、元よく活動することができました。学校や家庭ではなかなかできない経験ができたと思います。

### 10月3日(火)【1日目】

1日目。入所式、昼食を済ませ、「磯遊び」から始まりました。残念ながらスナメリを見ることはできませんでしたが、カニやヤドカリなどの生き物を捕まえたり、貝殻を集めたりして、みんな夢中で磯遊びを楽しみました。その後は、いよいよ「プールカヌー」に挑戦です!所の方の説明をしっかりと聞いて安全で落ちない乗り方を理解したら、いざ開始!カヌーから落ちて危険がないようにと、ヘルメットと救命胴衣を着けて乗り込みました。が、みんなパドルを上手にを使って、カヌーを乗りこなしていました。結局、誰一人カヌーから落ちることなく、みんなとても楽しんでいました。スピードもアップして、すごい上達ぶり。片付けも班員で協力して行うことができました。

夕べのつどい、夕食の後は、「試肝会」です。東朽網小学校の先生の「耳なし芳一」の話聞いて、いよいよ出発。班で協力してきちんと活動することができました。校長先生は、みんながスタートした後、ゴールでみんなの帰りを待っていたのですが、暗闇の中とどろくみんなの悲鳴をずっと聞いていました・・・

試肝会を終えると、お風呂です。短い時間でしたが、みんな譲り合って、時間内に上手に入浴することができました。その後、班会議で班長を中心に一日を振り返りました。疲れていたのでしょうか。10時過ぎにはみんな就寝しました。

### 10月4日(水)【2日目】

2日目の朝は、6時45分に起床。とても爽やかな朝で、最高の野外活動日和。朝のつどい、朝食を終え、最後の活動の前に、清掃活動を行いました。みんなで協力して、2日間お世話になった場所をきれいにしました。

最後のプログラムは「海賊の大冒険」です。各班で協力し、チェックポイントの問題を解きながら、海岸探索、コロリン坂、ズルズル坂など、スリル満点のコースを歩きました。かなり急な坂でしたが、みんなで声をかけ合いながら、全員が歩ききることができました。

もじ少年自然の家での最後の食事。おいしくいただき、食堂の方に大きな声で「ありがとうございました!」と一人一人お礼を言いました。そして、退所式を終え、学校へ向かいました。

出発式で校長先生より、自然教室を成功させるために守ってほしい5つのこと、「責任」「思いやり」「規律」「けじめ」「安全」の話をしました。また、入所式では、「時間を守る」と「自分で考えて行動すること」、そしてそのためには、しおりを見て行動してほしいと話しました。最初は5分前行動が守れない場面がありましたが、その反省を生かし、すぐに早目早目の行動ができるようになりました。なんとといっても、よく食べてよく寝て、全員元気に2日間を過ごすことができ、感心しました。帰校式でのみんなの笑顔から、大きな成長を感じました。

こうして自然教室が成功に終わったのは、もちろん子どもたちが頑張ったことが一番です。ですが、保護者の方、先生、友達、もじ少年自然の家の方、多くの方のおかげで無事自然教室を終えることができたのだという「感謝の思い」を、子どもたちには感じてほしいと思います。今回、みんなに思い出を作ってもらいたいと、たくさんの先生が駆け付け、お化け役になって試肝会を盛り上げてくれました。学校に帰り着くと、職員室にいる先生はみんな正門に出迎えに来てくれました。きっと5年生の2日間の成長を感じたことでしょう。これからの成長が楽しみです!

子どもたちに[生きる力]を育むためには、自然や社会に触れる実際の体験が必要です。子どもたちは、具体的な体験や事物との関わりをよりどころとして、感動したり、驚いたりしながら考えを深める中で、実際の生活や社会、自然の在り方を学んで生活を創り出していきます。このように、体験は子どもたちの成長の糧であり、[生きる力]を育む基礎となっています。しかしながら、今日、直接体験が不足しているのが現状です。学校では、今後も様々な体験活動を工夫して行っていきたいと思います。きまぐれ。そして、そこで得た知識や考え方を基